

2013年6月20日
テバ製薬株式会社

この資料は、2013年6月17日にテバ本社（イスラエル）が発表したものの邦訳です。
訳に齟齬が生じる場合、原文が優先されます。

テバ社、マイクロドース セラピューテクス社を統合し、 呼吸器フランチャイズをさらに強化

2013年6月17日、エルサレム（イスラエル）： テバファーマスーティカル・インダストリーズ社（以下、テバ社）（NYSE: TEVA）は、本日マイクロドース セラピューテクス社（以下、マイクロドース社）（株式非上場）を統合することで最終合意に至ったと発表しました。マイクロドース社は、患者さん自らの投薬を可能にした製品と薬物の体内伝送技術に長けた企業で、同社が注力する薬物吸入技術と医薬品は、肺疾患および感染症に対して有効性と服薬コンプライアンスの飛躍的な改善が期待できます。

テバ社の呼吸器疾患領域のパイプラインは、マイクロドース社の技術と製品群を加えることで、大幅に拡張することができます。今後テバ社は、マイクロドース社が特許を持つ、事前準備なしで30秒以内に投与でき、複数回使用可能な乾燥粉末用ネブライザーなどの独創的な技術を利用することができます。

マイクロドース社の現在のパイプラインはRSウイルスに適用を持つMDT-637により支えられています。これは同社の技術を通じて供給される、低用量、低分子のウイルス複製を妨げる融合阻害剤の吸入薬です。

テバ社 グローバルR&Dトップ兼チーフ・サイエンティフィック・オフィサーであるマイケル・ヘイデンは「素晴らしいマイクロドース社の製品と技術を当社の成長分野である呼吸器フランチャイズのポートフォリオに迎え入れることができ、感激しています。マイクロドース社のシンプルかつ魅力的なプラットフォームが加わり、より服用しやすい方法が求められながらも提供できていなかった小児や高齢者のニーズに応えられるようになります」と述べています。

契約条件の下、テバ社は、最終的に約4千万ドルで、マイクロドース社の発行済株式の全てを取得します。承認申請や開発マイルストーンの達成時には1.25億ドルまで追加で支払いま

す。さらに MDT-637 および開発初期段階にある喘息/COPD 薬の販売開始時には、売上予測に基づいて段階的にロイヤリティを支払います。

マイクロドース社の最高経営責任者 兼 会長のアナンド V・グマステは「私たちは、この合意が患者さんへの利益を最大化し、マイクロドース社のプラットフォーム技術開発プログラムを推進する比類のない機会を提供すると確信しています。テバ社は、体内薬物伝達技術と新規治療法開発の両方で豊富な経験を持ち、呼吸器疾患における販売力を拡大しています。またテバ社は、世界市場でのプレゼンスと世界有数のグローバルサプライチェーンを有しています」と述べています。

この契約において、スタイフェル社が、マイクロドース社の独占的ファイナンシャルアドバイザーを務めました。

マイクロドース社について

マイクロドース セラピューテクス社は、1998 年創設の非上場企業で、独自の肺疾患用薬剤と経口剤に注力した製品開発を行っています。なかでも乾燥粉末吸入剤と経口合剤を用いた投与方法は、ニーズの高い市場に応えるものです。同社は自社開発だけでなく大手製薬会社との共同開発によって、製品や技術を開発してきました。マイクロドース社のパイプラインは喘息や COPD、ウイルス性呼吸器疾患、感染症(RS ウイルスを含む)の他、IBS-C や便秘も対象としています。